

# 厚生文教常任委員会 行政視察報告書

## 1 視察日程

平成30年9月20日（木）午前10時～正午

## 2 視察先及び目的

視察先：大石田町 役場

目的：ボランティアによる除雪支援の取組みについて

## 3 視察者

委員長 榎 正義

副委員長 東海林信弘

委員 丹野 貞子、増川 修、齋藤 隆、細矢 誓子、石垣 光洋

都市整備課 大泉 課長補佐、大場 総括主任

議会事務局 中野 局長補佐

## 4 視察内容

ボランティアによる除雪支援の取組み、及び雪対策の現状について。

大石田町出席者

村岡 議長、小玉 副議長、

まちづくり推進課 間宮 課長、佐々木 政策推進主査

議会事務局 鈴木 局長、森 議会主査

○地方創生に関する雪対策への町民アンケートを実施した。その結果、「住みにくい理由」として約8割の町民が「雪」と回答しており、その内容について要望や課題をまとめた。

1位 除雪の支援サービス等。

2位 除雪、融雪設備に対する補助金の交付。

3位 流雪溝の設置及び改善。

○大石田町では除雪支援制度としてNPO法人（まちづくり大石田）の取組みがある。

①間口除雪支援。

②敷地内除雪支援。

利用料金は2名1組で1時間当たり3,800円、NPO法人登録者は25名であるが実際働ける方は6、7名であり、常時働ける登録者の確保が課題とのことだった。

※NPO法人への依頼件数（H29年12月～H30年3月）



山のような雪。大石田町の除雪の様子。

233件（個人：200件 町：33件） H28年度は81件

○除雪作業の負担軽減として平成30年度から「小型除雪機購入補助金」制度を導入し、対象経費の10分の1（上限5万円）を助成している。（H29年度5件の申込み）

○11月には町と委託業者、45地区の区長で除雪会議を開催し、町の除雪方針を確認している。

※業者の協議会を通し除雪に関し連絡を行っている。

※除雪が終わる春先には業者（オペレーター）との反省会を行って課題を整理している。

○除排雪について、役場だけでなく町民全体の意識を高めるために「クリーンアップ大石田」、「雪道愛護デー」などを設定し全町民が除排雪に参加する日を定めている。

○除雪費の当初予算は約1億円で、補正予算の結果、約4億円を超えている。



大石田町職員の皆さまはじめ、村岡議長、小玉副議長にも出席いただき、ご教授いただきました。お忙しい中、ありがとうございました

## 5 所感

○町の中心部でも例年2mを超える積雪があり、雪を理由に近隣市町への転出に歯止めがかからない状況と、雪による生活不安を克服するため、官民連携による雪対策を実施していた。（流雪溝の整備など）

○地域の連帯感の向上と、元気な高齢者のエネルギーを活用した地域課題の解決、町づくりを積極的に行っていることに感心した。

○地区内の除雪に関する苦情はすべて区長を通して行うことが定着しており、区長の役割が大きいと感じた。

○車道・歩道除雪作業は10cmに達すると出動し、歩道の残雪を5cm以下に目標掲げ、きめ細かな除雪を実施していた。

○空き家所有者の依頼を受け、敷地内除雪をNPO法人で行っており、空き家対策の一つとして考えさせられた。

## 6 まとめ

○雪に対する町民の生活負担をできるだけ少なくする対策を、具体的な雪対策として表す必要がある。

○除雪シーズン前には除雪会議を実施し、区長や委託業者（オペレーター）、町と三位一体となり、除雪方針への理解と雪押し場を含む地区の除雪についての要望などを確認する必要がある。



今年の大石町新そばまつりは 10 月 27 日  
(土)・28 日 (日) に開催